

健診・検診・人間ドックの実際

— 限界を知り、やるからには有意義に利用 —

笠間市立病院 院長 石塚恒夫

平成26年度の国民健康保険特定健診実施率は34・6%と低迷しており、目標とする60%には程遠い。受診しない理由は「医療機関に通院しているから」が多く、治療の一環として行った検査データを医療機関が提供しても実施数に計上できることとなり。市町村に多くのデータが集まることで、有効な保健事業が可能になると期待されています（データヘルス計画への活用）。通院中で重複検査を避けたい患者さんは、地域の健康づくりも意識してかかりつけ医にご相談ください。

生活習慣病など危険因子の早期発見・介入を目的とする「健診」は、日本独自の制度です。健診群と非健診群を比較したデンマークの臨床試験では、健診群で心筋梗塞や脳卒中が減少しなかったと報告されました。

しかし特定健診で積極的支援を受けると、男性で2/3割、女性で3/4割がメタボリックシンドロームを脱却できたとの報告もあります。

がん等の早期発見・治療を目的とする「検診」は、欧米でも行われます。死亡率が低下する

ことが必要条件であり、大腸がん、子宮頸がん、乳がんに限定されます。日本の対策型検診法（定）もそれに準じ、胃がん・肺がん検診も含めて実施されています。しかし無症状の方が受検しても発見されるのは1000人に1人程度であり、発見されるのは緩徐発育するタイプが多いのです。命に係る急速発育するタイプは検診でも発見困難であり、定期的に検診を受けていても症状があれば受診してください。

そして、科学的根拠に乏しい検査項目が多く含まれる「人間ドック」は、日本独自です。任意で行われるものですが、それ故に有効性や費用、合併症についての十分な説明が必須です。

以上のように健診・検診・人間ドックには限界があるので、受けるだけで満足してはいけません。症状がなくても禁煙を始めとした生活習慣改善、ピロリ菌除菌などへと繋げ、症状があれば早期に受診することが必要なのです。



笠間の歴史探訪 33

岩間の名勝

滝入り不動堂

岩間上郷地区駒場の奥、愛宕山を山越えした裏手の崖に二条の滝がかけ、そこに滝入り不動堂があります。古代からの修験道の聖地であり、愛宕霊山の修験道場の一つとして役割が大きかったことがうかがわれます。

さて、このお堂はいつ頃建立されたのでしょうか。「享保十五年（一七三〇）常州岩間御紀行」三代藩主土屋陳直の記録が下郷小沼家に残っています。その文書によると、

「山の麓に滝野入り不動として幽閑の所有り。岩根より水流れていさぎよし。いにしへハ堂社・仏像もなかりしに、予が祖父此の地巡検有し時、ここぞ境地殊勝なり。不動尊を安置すべしとて、石に尊像を彫り滝野もとに据えられしより名付けて今にひとつの霊地となりしと聞ハ猶とうとて拝ミにき。夕陽流水うつるを見待りて元ならずと岩根にうつる此滝の入り影をあらうけしきハ」

と記しています。祖父初代数直がこの地を気に入り、勧請したことをうかがわれています。

また、笠間郷土資料館（旧岩間町図書館）に棟札が残されています。

従五位下相模守源姓土屋氏政直建立、
上棟常州茨城郡岩間村滝入り不動明王堂
寛文十庚戌年二月吉辰

数直が四万五千石の土浦藩主となった寛文九年（一六六九）の翌年嫡子政直が立派なお堂を建立したのでしようか。

これまで上郷地区中通りの普賢院に安置されている永祿五年（一五六二）の墨書のある本尊不動明王像と同一のものと伝えられてきましたが（岩間今昔誌より）、今回の「常州岩間御紀行」と「棟札」の調査では、異なるのではないかと考えられます。

昭和五十年代まで二階建ての滝療法の宿坊が建っていて精神的な病の人など霊験あらたかと病氣療養にも利用され賑わいを見せていたようです。現在は地域のの人たちの努力により周辺を整備し、夏の避暑に秋の紅葉にとちよとした観光スポットにもなっています。

（市史研究員 川崎史子）



賑わいを見せていた滝入り不動堂 昭和10年頃